

# 平成 24 年度事業報告

平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

## I. 事業の状況

### 1. 定期講演会の実施

定期講演会については、本年度は以下のように実施した。

・会場	全国 8 ヲ所
・開催回数	72 回
・来場者総計	2,584 名
・収入	1,492 千円
・支出	8,769 千円

定期講演会 8 会場の詳細は次のとおり。

#### ①東京会場（原則として毎月第 2 及び第 4 土曜日

午前 10 時より大手町ビル 513 号室）

・実施回数	20 回
・来場者	1,376 名

（以下敬称を略します）

- 4 月 28 日 杉谷義純  
中国のお釈迦さま 天台大師の足跡
- 5 月 12 日 石上善應  
懺悔
- 5 月 26 日 大童法慧  
いかなるが 苦しきものと 人間わば
- 6 月 9 日 高史明  
欲生即ちこれ回向心なり 一教行信証・信  
巻より一
- 6 月 23 日 田上太秀  
情けは人の為ならず
- 7 月 14 日 菅原伸郎  
かのように、生きていく
- 7 月 28 日 蓑輪顕量  
中世法相宗に見る修行道 一良遍を中心に
- 9 月 8 日 池田魯參  
道心の涵養
- 9 月 29 日 福田亮成  
『理趣釈経』をめぐって 一最澄と空海一

- 10 月 13 日 西田正法  
貧という生き方
- 10 月 27 日 菅沼晃  
仏教から正義について考える
- 11 月 10 日 ケネス田中  
「溺れる船乗り」という七変相図一求道者  
の解脱
- 11 月 24 日 木村清孝  
人生というステージ  
一仏教者として現代をどう生きるか一
- 12 月 8 日 近田昭夫  
何をさとられたのか一釈尊成道の日に一
- 1 月 12 日 奈良康明  
平気で生きていこう
- 1 月 26 日 横山紘一  
スティーブ・ジョブズと禅
- 2 月 9 日 富田富士也  
甘えてもいいんだよ “還る家” ～ “日に  
ち葉” を子どもたちに～
- 2 月 23 日 西原祐治  
ありのままの自分を生きる  
一浄土真宗という仏道一
- 3 月 9 日 中野東禅  
不遇死と先祖のまつりといやし
- 3 月 23 日 田上太秀  
八正道は人の道である

#### ②大阪会場（原則として毎月第 4 金曜日午後 3 時よ り堂島アバンザ 14 階）

・実施回数	10 回
・来場者	433 名

- 4 月 27 日 幹栄盛  
仏教の智慧
- 5 月 25 日 信楽峻磨  
仏を信じたら人間 変わるか
- 6 月 22 日 西村恵信  
自然と人間 一東北大震災に思う一
- 7 月 27 日 西山厚  
明恵上人と善妙
- 9 月 28 日 岡田真美子  
文殊と龍女
- 10 月 26 日 池見澄隆  
今、なぜ〈宗教知〉か？
- 11 月 22 日 池見澄隆  
あの世とこの世一冥界・異界・顕界一
- 1 月 25 日 山田法胤  
仏陀の人間観

2月22日 真城義麿  
念仏で救いは買えません

3月22日 奈倉道隆  
寿命の質を高める仏教思想と介護福祉

③名古屋会場（原則として毎月第3水曜日午後1時30分よりCRD丸の内ビル9階）

・実施回数 10回  
・来場者 288名

4月18日 奈倉道隆  
仏の知恵と慈悲による認知症の予防と介護

5月16日 松平實胤  
仏と成る道

6月20日 亀井鑛  
人皆御免なさい存在

7月18日 上沼雅龍  
こころの耕運機

9月19日 青山俊董  
彼岸の心 ～般若心経の心～

10月17日 柴田悟  
他力念仏によって救われた私

11月21日 赤池憲昭  
読み替えられる死

1月16日 立川武蔵  
ブッダの生涯

2月20日 衣斐弘行  
如月の別れー涅槃図再考

3月19日 加藤祐伸  
人に生きる悲しみ

④福岡会場（原則として毎月第4金曜日午後3時より福岡センタービル9階）

・実施回数 10回  
・来場者 211名

4月27日 村上大朗  
すくわれるということ

5月25日 田村圓澄  
色定法師と平清盛

6月22日 藤本至誠  
親が子となり子が親に

7月27日 菊城淳真  
生死を超える

9月28日 神原玄應  
慈覚大師の足跡を偲ぶ

10月26日 平兮宗賢  
生死即涅槃 ー 生を思い死を思う

11月22日 大江憲成  
躍動する信心

1月25日 田畑正久  
現代日本の医療文化と仏教文化

2月22日 武内英真  
よみがえった人生ー向坊弘道氏を讃仰す

3月22日 太田心海  
信心の智慧

⑤防府会場（原則として毎月第2水曜日午後1時30分より防府市地域協働支援センター2階）

・実施回数 8回  
・来場者 83名

4月11日 有福孝岳  
心学道と身学道

5月9日 岩田啓靖  
憂愁の上杉憲実 一元関東管領、長州大寧寺に没すー

6月13日 林寛孝  
後白河法皇と阿弥陀寺 ー重源上人が願ったことは？

7月11日 中村棟俊  
般若心経のこころ

9月12日 香川孝志  
仏教行事 彼岸会について

10月17日 小林正純  
般若心経

11月14日 一万田良哲  
宗教なしに生きて行けるのに！何を今更？

3月13日 森江俊孝  
インド仏跡巡礼紀行

⑥宇部会場（原則として隔月第2金曜日午後1時30分より宇部市文化会館ほか）

・実施回数 5回  
・来場者 85名

5月11日 松原徹心  
いのちを慈しむ ーいのちといのちの和からいのちは  
生れ育ちますー

- 7月13日 木村隆徳  
葬式及び先祖供養を考える
- 9月14日 児玉識・島田教明  
明治維新と仏教 ー長州藩の場合ー
- 11月9日 有福孝岳  
大自然の声と天地創造
- 3月9日 小林正純  
般若心経

**⑦札幌会場**（原則として隔月第3金曜日午後3時より  
札幌パークフロントビル4階）

- ・実施回数 5回
- ・来場者 49名

- 5月18日 石飛道子  
自己を洲とせよ、法を洲とせよ
- 7月20日 巖城孝憲  
現生正定聚
- 9月21日 金石晃陽  
なぜ今、仏法に遇わなければならないのか
- 11月16日 高畑俊孝  
仏教における葬儀の内容と意味
- 3月15日 石飛道子  
如来の十号

**⑧仙台会場**（原則として3カ月毎第2金曜日午後2時  
より仙台橋本ビル9階）

- ・実施回数 4回
- ・来場者 49名

- 4月13日 乗元恵三  
還るところ
- 7月13日 丸田善明  
生死のいのちと無量寿 ー大震災からの問いかけー
- 10月12日 佐々木邦世  
仏のつぶやき
- 1月11日 高橋哲秋  
一人称の処世術ー唯我独尊と因縁処生ー

**2. 各種行事の実施**

各種行事については、本年度は下記の行事を実施した。

**①妙好人のふるさとと中村元記念館を訪ねる  
出雲路の旅**

平成24年11月28日～30日 参加者25名

**②在家仏教坐禅の会**

平成24年9月12日

曹洞宗大本山總持寺。参加者22名。

**3. 出版物の刊行**

出版物の刊行については、本年度は以下のように実施した。

- ・収入 11,554千円
- ・支出 26,522千円

**①月刊誌『在家佛教』**

毎月1回発行、A5判100頁

**▼平成24年5月号**

- |       |                     |
|-------|---------------------|
| 高橋弘次  | アート「平山郁夫 シルクロードの軌跡」 |
| 安永祖堂  | 九州国立博物館             |
| 安武隆信  | 法然と親鸞               |
| 真城義麿  | 級の話                 |
| 西川玄苔  | 社会に関わるお寺づくり         |
| 田代俊孝  | 宗教なき時代の閉塞           |
| 羽矢辰夫  | 大悲のリズム              |
| 菅原伸郎  | 光の中の「悪人」ー阿闍世の救いー    |
| 石上善應  | バングラデシュを訪ねて         |
| 野呂昶   | 何が大切か               |
| 富田富士也 | 一百四十五箇條問答（4）        |
| 神田忠   | いのちのほほえみ みみずがはねる    |
| 内藤喜八郎 | 人に子どもに“光”あれ（17）親である |
|       | ことのしあわせを尋ねられた夫婦     |
|       | 俱律究（42）仏教を学ぼう       |
|       | 今月の表紙・イラワジの河畔で      |
|       | おぼえよう となえよう         |
|       | アート「ボストン美術館」展       |
|       | 加藤辨三郎・言葉抄           |

**▼平成24年6月号**

- |      |             |
|------|-------------|
| 安田暎胤 | アート「解脱上人貞慶」 |
|      | 展 奈良国立博物館   |
|      | 利他に生きてこそ    |

花谷和子 祈りとともに  
 青山俊董 光に導かれて  
 奈良康明 無常を観る  
 平分宗賢 禅語を人生に活かす  
 黒崎浩行 書評「共に在りて」  
 中村元 仏教者は災害にどう向き合うか  
 野呂昶 アーカイブス 真理を求める心構え  
 菅原伸郎 いのちのほほえみ しゃくとりむし  
 石上善應 のっそりと  
 富田富士也 一百四十五箇條問答（5）  
 神田忠 人に子どもに“光”あれ（18）消えずに  
 内藤喜八郎 とんだしゃぼん玉の親子  
 俱律究（43）衣食住をインターネットで  
 今月の表紙・ヒルノ山の湖で  
 おぼえよう となえよう  
 加藤辨三郎・言葉抄

森俊英 浅瀬でも溺れるのはなぜ？  
 ケネス田中 信ずる宗教から目覚める宗教へ  
 藤本至誠 先進国で伸びる仏教の魅力ー  
 菅原伸郎 利他円満の仏によって、利他円満の  
 石上善應 仏に成る  
 奈良康明 現代の演奏  
 野呂昶 一百四十五箇條問答（7）  
 富田富士也 法句経に学ぶ（2）自・他の関係  
 神田忠 いのちのほほえみ さつまいも  
 加藤辨三郎 人に子どもに“光”あれ（20）入院への  
 内藤喜八郎 偏見と向き合う母親  
 俱律究（45）フライトや  
 通話サービスに新顔  
 今月の表紙・太古の自然  
 アート「解脱上人貞慶」展  
 おぼえよう となえよう

#### ▼平成 24 年 7 月号

アート「仏教の来た道」 龍谷ミュージアム  
 佐瀬道淳 よく見えるということ  
 佐江衆一 何もせぬのに山笑い山滴る  
 武田定光 「だったら生きてもいいじゃないか」  
 竹村牧男 日本の霊性について  
 乗元恵三 アメリカ仏教を拓いた人たち  
 大菅俊幸 仏教ボランティアの現場から  
 増谷文雄 行動する禅僧・河野太通老師  
 菅原伸郎 アーカイブス 二つの世界  
 石上善應 晩春の悪夢  
 奈良康明 一百四十五箇條問答（6）  
 野呂昶 法句経に学ぶ（1）原始仏典を  
 富田富士也 どう読むか  
 神田忠 いのちのほほえみ 緋扇  
 内藤喜八郎 人に子どもに“光”あれ（19）  
 父親だって幼子になりたいときがある  
 俱律究（44）kindle 上陸／  
 コンプガチャ問題  
 今月の表紙・托鉢行脚  
 おぼえよう となえよう  
 加藤辨三郎・言葉抄

#### ▼平成 24 年 8 月号

アート「幽霊・妖怪画大全集」  
 福岡市博物館  
 佐々木宏幹 東日本大震災と仏教  
 梶原敬一 宗教心とは何か

#### ▼平成 24 年 9 月号

アート「頼朝と重源」 奈良国立博物館  
 多川俊映 人間を超えたものの視線  
 越部良一 南無が阿弥陀仏である  
 乗元恵三 「飢餓」に向かい合った二つの話  
 幹栄盛 仏教の智慧  
 巖城孝慶 よきひとのおおせ  
 本多静芳 親鸞さまの手紙に見られる災害と信心  
 菅原伸郎 ああ禁酒令  
 石上善應 一百四十五箇條問答（8）  
 奈良康明 法句経に学ぶ（3）めげずに生きる  
 野呂昶 いのちのほほえみ 百日紅  
 富田富士也 人に子どもに“光”あれ（21）なにが  
 神田忠 「しあわせ」かを明らかにする母と子  
 内藤喜八郎 俱律究（46）下期ヒットの有力候補が  
 今月の表紙・鳥の巣づくり  
 おぼえよう となえよう  
 加藤辨三郎・言葉抄

#### ▼平成 24 年 10 月号

アート「近江路の神と仏」  
 三井記念美術館  
 小峰彌彦 想定外ということー仏の領域ー  
 安藤嘉則 末期の眼  
 有福孝岳 慈悲と智慧ー観世音と観自在ー  
 讓西賢・金光寿郎 煩惱から解放されるとき  
 柴田文啓 第二の人生は、僧侶になって  
 黒川文子 世のため人のために活動しませんか？  
 四季の仏教行事 夏 恐山大祭

大菅俊幸 仏教ボランティアの現場から (23)  
正しき怒りをもて一田島伸二氏に聞く一  
書評『〈親鸞〉と〈悪〉』 親鸞思想  
をてがかりに文明社会へ警鐘  
高海史 愛の無神論  
菅原伸郎 一百四十五箇條問答 (9)  
石上善應 法句経に学ぶ (4) 自分を滅ぼす  
奈良康明 いのちのほほえみ ぶどう  
野呂昶 人に子どもに“光”あれ (22) 不登校  
から僧侶になった青年を支えた祖母  
富田富士也 俱律究 (47) 読書の秋 電子端末で  
書籍、新聞を読む  
神田忠 今月の表紙・山の湖に住む  
内藤喜八郎 おぼえよう となえよう  
加藤辨三郎・言葉抄

#### ▼平成 24 年 11 月号

アート「武家の古都・鎌倉に注目」  
神奈川県立歴史博物館、  
神奈川県立金沢文庫、鎌倉国宝館  
鷹司誓玉 「牛にひかれて」伝説を追体験  
村越英裕 困ったときは「止まる」と心が軽くなる  
高橋審也 苦悩に生きる人間の象徴  
一パターチャーラーの逸話より  
田村圓澄 色定法師と平清盛  
田畑正久 念仏はなぜ難信なのか  
菅原伸郎 山道の雑念  
石上善應 一百四十五箇條問答 (10)  
奈良康明 法句経に学ぶ (5) 有り難うと  
言わない文化を巡って  
野呂昶 いのちのほほえみ むらさきしきぶ  
富田富士也 人に子どもに“光”あれ (23) 先を読む  
わが子に自殺した夫を重ねる母親  
神田忠 俱律究 (48) iPhone5 発売  
内藤喜八郎 今月の表紙・山の中の湖で  
おぼえよう となえよう  
アート 秋の展覧会へ行こう  
加藤辨三郎・言葉抄

#### ▼平成 24 年 12 月号

アート「高野山麓 祈りのかたち」  
和歌山県立博物館  
加藤智見 他力信仰と女性  
赤川浄友 今、まさに仏教の出番  
奈倉道隆 移り変わる現代の生活と仏道  
島蘭進 認知症の予防と介護  
悲しみの容れものとしての仏教

互井観章 今・ここを照らす仏教 (1)  
「虹を翔るお坊さん」となるために  
西岡秀爾 書評『ブッダ最後の旅をたどる』  
老病死を肯いつつ前向きに生きる道  
菅原伸郎 円了と妖怪  
石上善應 一百四十五箇條問答 (11)  
奈良康明 法句経に学ぶ (6) 自分をも他人を  
も傷つけない言葉  
野呂昶 いのちのほほえみ かりん  
富田富士也 人に子どもに“光”あれ (24)  
喃語を難語で聞こうとした住職の父親  
神田忠 俱律究 (49) セキュリティ対策を見直そう  
内藤喜八郎 今月の表紙・二頭の牛車  
おぼえよう となえよう  
加藤辨三郎・言葉抄

#### ▼平成 25 年 1 月号

アート庶民の寺が蔵する稀書  
「古事記 1300 年大須観音展」  
名古屋市博物館  
松田正典 基本的信頼を柱とする人格形成  
土屋正道 なむあみだぶつ、いっしょに称えましょう  
高史明 欲生即ちこれ回向心なり [前編]  
薄井秀夫 今・ここを照らす仏教 (2)  
仏教に何がおきているか? [前編]  
黒川文子 学ぶ喜びに包まれて一中村元先生と  
秋月龍珉 東方学院の思い出  
菅原伸郎 アーカイブス 公案  
石上善應 かのように、生きていく  
奈良康明 一百四十五箇條問答 (12)  
野呂昶 法句経に学ぶ (7) 道を歩く  
いのちのほほえみ いちょうのきんのわ  
富田富士也 人に子どもに“光”あれ (25) 実直で  
照れ屋な父親に”母性”を感じた息子  
神田忠 俱律究 (50) 流行語大賞候補から  
年を振り返る  
内藤喜八郎 今月の表紙・悠久のいのち  
おぼえよう となえよう  
加藤辨三郎・言葉抄

#### ▼平成 25 年 2 月号

アート神の姿を描いた風景画「那智瀧図」  
根津美術館  
小倉玄照 更生保護と「諸悪莫作」  
平岡三峰子 生まれを越えて～釈尊の「彌猴奉蜜」  
観る～  
乗元恵三 かくれ仏教徒

高史明 欲生即ちこれ回向心なり〔後編〕  
 亀井鑛 人皆御免なさい存在  
 薄井秀夫 今・ここを照らす仏教(3) 仏教に何が  
 おきているか?〔後編〕  
 菅原伸郎 模擬授業で  
 石上善應 一百四十五箇條問答(13)  
 奈良康明 法句經に学ぶ(8) 八正道を歩く  
 野呂昶 いのちのほほえみ つららのたてごと  
 富田富士也 人に子どもに“光”あれ(26) 夫の命を  
 つなぐことに迷う母親  
 神田忠 俱律究(51) Kindleがスタートしました  
 内藤喜八郎 インドの王舎城跡で  
 アート 新春の展覧会へ行こう  
 おぼえよう となえよう  
 加藤辨三郎・言葉抄

上田閑照 人間として生きるということ  
 松平實胤 仏となる道  
 仏教ボランティアの現場から(24)  
 大菅俊幸 あとから来る者のために一放射能汚染と  
 闘う福島の人教者一  
 菅原伸郎 親鸞と農民  
 石上善應 一百四十五箇條問答(15)  
 法句經に学ぶ(10)  
 奈良康明 自己を愛するという  
 こと  
 いのちのほほえみ 「海のシンフォニー」  
 ガザミ  
 人に子どもに“光”あれ(28)  
 富田富士也 「いじめ」不信を成人で乗り越えた  
 「グズな子」  
 神田忠 俱律究(53) 電子書籍の大本命 Kindle  
 内藤喜八郎 仏陀の涅槃  
 アート 春の展覧会へ行こう  
 おぼえよう となえよう  
 加藤辨三郎・言葉抄

#### ▼平成25年3月号

アート鑿で吹き込んだいのち特別展  
 「飛驒の円空」 東京国立美術館  
 清水眞澄 「仏」と仏像  
 川田進 漢人信徒が通う東チベットの瞑想道場  
 上沼雅龍 こころの耕運機  
 蓑輪頭量 宗教者の被災者支援一宗教者災害支援  
 連絡会の取り組みを中心に一  
 核兵器 VS 人類 一これからの8年  
 が勝負一  
 森俊英 アーカイブス 「歎異」のこころ  
 金子大榮 締め切り考  
 菅原伸郎 一百四十五箇條問答(14)  
 石上善應 法句經に学ぶ(9) 善悪の判断  
 奈良康明 いのちのほほえみ「海のシンフォニー」  
 野呂昶 クラゲ  
 富田富士也 人に子どもに“光”あれ(27) 理由の  
 分からない「くせ」に悩む施設の”母”  
 神田忠 俱律究(52) 新年度へ向けて、仏經を  
 実践しよう&学ぼう  
 内藤喜八郎 靈鷲山の上  
 おぼえよう となえよう  
 加藤辨三郎・言葉抄

#### ②協会創立60周年記念書籍の発刊

12月末に「講演集 悲喜をよろこぶ」と、「対談集  
 掌を合わせて生きる」の2冊を発刊  
 会員及び関係者への贈呈及び販売

#### 4. その他目的を達するために必要な事業

##### ①国公立図書館並びに大学図書館及び刑務所

「在家佛教」誌を毎月寄贈

##### ②ホームページ改善及び「在家佛教」誌のデジタル化

在家佛教誌の一部が閲覧でき、入会申し込み・定期  
 購読の申し込みが可能になる

##### ③在家佛教誌から他誌への転載許可

「名を呼ぶということ」平成18年9月号

「何があっても大丈夫」平成22年2月号

著者 藤谷 知道

転載先 『いのちの風光一浄土そして浄土から一』

#### ▼平成25年4月号

アート小浜の秘仏を初公開「若狭・多田寺  
 の名宝」 龍谷ミュージアム  
 一島正真 龍族の仏教との関わり  
 友松浩志 生きる意味を伝える  
 濱田英作 石窟寺院バーチャル参詣